婦人と新社會

山田わか主筆

三月號

婦人と實際技術

婦人運動と婦人職業
——惡果か善果か——

ウォードの『純正社會學』
——現代社會問題解決の鍵——

——編輯の後——

大正十四年二月廿三日印刷納本

每月一回一日發行　第六十號　大正十四年三月一日發行

東京市婦人と新社會社發行

婦人ご實際技術

思想、智慧、發明力は女に始まり男へと流れて行つたと云はれてゐます。

中でも陶器術は何處の國でも婦人の手に始まり婦人の手に任されてあつたが、さうなつた原因は狩獵又は戰爭が最も男らしい仕事であると想像され、家の中の仕事は劣等な仕事と考へられてあつた時代に婦人の發明にかかるものだからと云ことです。

實際技術は婦人の發明であると多くの學者は云ひ、殊に、メーソン博士は最も有益な發明の多くは婦人が爲したものだと發表してゐます。

處で、婦人の創造にかかる發明及び技術は多く實際的であつて、それが婦人の手にある間は裝飾的にならなかつたとも云はれてゐます。

で、これ等の學說のうちには無限の暗示が含まれてゐることを見逃してはならないと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人運動と婦人職業

――惡果か善果か――

一

婦人の活動範圍は日に月に擴大しつゝあります。婦人側から云へば、又、女子教育家側からは不服は無限にあつても、とにかく、婦人の知能を發達させる機會は益々多くなつて來てゐますし、男子と平等なる政治上の權利も議論はほゞ盡きて其の實現は、唯、時間の問題となつてゐます。

婦人の職業の自由と云ふことに付て考へて見るとこれは、又、殆ど無制限の狀態になつてゐて婦人に其の資格さへあれば殆どどの方面へでも這入つて行けるし、需要も相當にあるようです。一言で云へば、婦人の權利伸長は着々と實現しつゝあるわけです。

處で、果してこれが常道、他の言葉をもつて云へば、これが進步の軌道の上に乘つてゐるのであるか？　或ひは、一時的の現象、他の言葉をもつて云へば過度期の病的現象であるかと云ふことに

付て以下少しく書いて見ようと思ひます。

云ふ迄もなく、初期に於ける婦人論は實に婦人の權利の伸長でありました。女子の教育が制限されてあつたゝめに女子は充分な成長を遂げることが出來ず、そして、男子の出來心や、男子の造つた法律の犧牲となつてゐました。其狀態に反抗して人道其れ自身が婦人の權利を叫び始めました。

處が、凡ての大きな運動と同じように、此の婦人運動にも狂的熱心家や、單なる偶像破壞者が加はつて、唯、破壞をことゝし、しかも、破壞したものゝ代りに何物をも建設せず、有害無益な空想と不可能な理想のみを後に殘したと云ふ點もあります。

且つ、さう云ふ狂的熱心家や單なる偶像破壞者は多くの場合ひ、進歩と云ふ觀念に魅かれてゐて唯々、あらゆる方面に於ける變化を歡迎し、單なる變化が進歩であるかのやうに恐しい感違ひをしてゐるものです。

けれども、人間は久しい間の苦しい經驗から、一方には、さう云ふ狂的熱心家や單なる偶像破壞者の仕事は善果よりも惡果を結ぶことが遙かに多いことを悟つてゐて、そして、自家保護のために古い制度をなかなか破壞しないばかりでなく、其れに固執してゐると云ふ傾向さへ持つてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

保守主義と云ふものは過激主義と同じやうに幸福と進歩のためには絶對に必要であると云ふことは曾て云つて置きましたが、實にこの兩者の調和した歩みが堅實の保證であるのです。

歴史に現れてゐる革命なるものは國民の眞の苦情に原因するとは云へ、それが大きくなり恐ろしい狀態を現出するやうになつたに付ては徒らなる煽動者に依る處が多かつたと云はれてゐます。婦人運動にもさう云ふ點が無かつたとは決して云へない。しかも、男子の利己主義と不公平に反抗して立つた結果は、競爭の精神から分別を誤まつたり、可能性を乘り越へたりしました。其處で、前にも云つた通り、今、現に婦人が進みつゝある方向は婦人論を完成するに正當なるものであるか、それとも、全體としての婦人運動の健全な成長には何等關係のない不時の發生物であるかどうかを私共は研究する必要があるのです。

そして、この點を明らかにするには、私共は、歐米の婦人運動の結果を參考して見る必要があります。なぜなら、我が國の一般婦人の間にはとにかく少なくとも知力的に傾いてゐる階級以上の階級間には相當に婦人論の理想が行き渡つてゐて、そして、それは直接又は間接に歐米婦人運動の模倣であります。後車である我が國婦人運動の結果を見るために、前車である歐米婦人運動の結果を

見ることは、つまり、歐米婦人運動が今日の社會に齎したものが善果であるか？　惡果であるかを見やうとすることは決して無駄なことではありません。

二

婦人運動の結果は、決して、婦人論に關する文献の分量によつて斷ぜられるものでもなし、又、婦人運動者の烈しい運動ぶりによつて判斷出來るものでもなし、或ひは、又、婦人の活動範圍の擴大によつて直ちに樂觀することも出來ないものです。

婦人運動の結果、婦人の活動範圍が擴大したのは事實です。けれども、その擴大が果して婦人自身の並びに社會の幸福の増大となつたかどうか、此處に標準を置かなければなりません。善果、惡果を此處で見なければならないのです。

婦人の活動範圍が擴大すればするだけ、それだけ家庭生活が凋落して行くと云ふのは自然の成行きです。そして、これが歐米に今日著しく現はれてゐる現象です。結婚數が非常に減少した。そして、結婚數の減少に從つて私娼が増大し、且ツ、私生兒の増殖となつてゐます。或る統計學者は、

結婚を避けて自由同棲を營んでゐる男女の數を一割り以上に置いてゐます。一方には、又、結婚年齢が非常に遲れて來て、佛蘭西では千組の結婚中二十五歳以下は二分九厘、白耳義では二分、けれども、伊太利では二割三分二厘だと云ふことです。これに加ふるに、既婚者が子供の數を制限するに努力してゐることは非常なもので、佛蘭西では、一九〇八年には、一千百萬戸數のうちで一人も子供のないのが二百萬戸たつた一人あるのが三百萬戸だと云ふことです。

其の後、歐洲全部に渡つて出產率は減ずるばかりで、其の最も烈しいのが白耳義、次が佛蘭西、其の次が英國と云ふ順になつてゐて、そして、獨逸及び米國も其の傾向は同じだと云ふことです。

一世紀以前には各家庭に四五人の子供が通例であつたのが、十九世紀の終り頃には二三人平均となり、其の後は益々減ずるばかりの傾向となつてゐるのです。

昔から今日迄、健全な勞働と共れに伴ふ平和な家庭生活の神聖と云ふことは殆んど諺になつてゐました。獨逸共和國の新憲法第二章第二節第百十九條は『結婚が家庭生活の基礎であること、引ひては國民の維持と成長であること、國家は家庭生活を完全に純化し向上さすべきこと、母性は其の保護を國家に請求し得ること』を規定してゐます。けれども、婦人論が盛んになつて以來、極端な

婦人論者は、家庭の仕事は凡ての仕事のうちで最も元始的なものであり、奴隷的の仕事であり、人格ある婦人の手にすべきものでないと宣傳し、た結果は無數の婦人が家庭に入ることを避けるやうになりました。

家庭勞働を厭ふと云ふ氣分は最早個々婦人の感情ではなく、一ツの大きな氣分として歐米には成立してしまいました。そして、經濟上の都合は何であれ、アパートメントに生活し、料理屋で食事すると云ふ習慣が速かに増加しつゝあります。

どうでもこうでも外で働かねばならぬ男子の一日の疲勞を癒やす安息所なる家庭、次代の生理上稽神上道德上の性質を決定する家庭と云ふものは婦人の活動範圍が擴大すればする程廢頽しつゝあるのです。

勿論、婦人論は、婦人の自由、又は、獨立と云ふ概念を基礎としてゐるものでありますが、其の自由と云ひ、獨立と云ふ概念そのものが動かすべからざる眞理の上に載つてゐるものであるかどうか？　それは單なる一ツの假定ではないかどうか？　其處にはまだ〳〵大いに研究しなければならない餘地があります。

三

要するに、政治上の權利の伸長、敎育の向上に付ては議論の餘地はないけれども、職業の自由と云ふことに付ては大いに考へなければならない。經濟上の獨立と云ふ觀念は勞働の意義を餘まり狹く解釋した處から來てゐます。唯物主義的、乃至社會主義的傾向の人に有りがちな、金に換算出來ない仕事の價値を見得ない偏見から來てゐるものです。且ツ、勞働とは單に體的勞働ばかりであるやうに考へ、知力的乃至精神的の仕事を無視した結果です。

その上に、前にも云つた通り、單なる變化を進歩と思ふ空想をも戒しめなければならない。産業革命があつて以來、婦人並びに子供が無數に産業界へ引きづり込まれて行きました。實際、これは何百年來の單調な生活には大變化でありました。けれども、これが、婦人のために、子供のために又、男子のためにも幸福を齎したと、どうして云へるでせう。從つて、進歩であるとどうして云へるでせう。

生理的に道德的に大いに保育を要する時代に機械の代用とされ、子供の生命は凋むばかり、又、

家庭から所謂解放された婦人は要するに工場奴隷又は事務所奴隷になつたに過ぎないと云ふのが少なくありません。そして、徒らに、長年かゝつて發達させて來た女らしさを失ひ、中性化しつゝあるのです。

勞働は單に金に換算出來るものばかりに限つてはならない。もつと廣い意味に解釋して、そして婦人獨特の次代養成と云ふ仕事を最高な價値に見積らなければならない。

四

實際、男子は、過去に於ては、自分の本當の幸福に必要以上に腕力によつて甚しい優者の位置を享有してゐました。けれども、さう云ふ不公平は誰にも許されない時代に今到達しました。腕力優勢の時代に於ては、男子が女子を無學にして置き、そして、卑しめたことによつて人道を害し、其の結果として、今、道德上敗頽した生理上いぢけた國民を收獲しつゝあります。

人道は、今、婦人に正當な位置を與へることを命じて居ます。そして、それは婦人が正當な結婚を避け、家庭を輕視し、次代養成の任務を厭ふやうにすることではありません。その反對に、愛し

結婚をし、温い家庭を造り、次代養成の任務に喜んで勇んで附くやうにすることです。そして、さうするには家庭婦人の位置を男子も社會も尊敬しなければならない。そして、それは男子の女子に對する惠みであつてはならない。女子の容色のためであつてはならない。人道に新生命を注入し、新しい厚則と新しい道德を樹立するものとしてゞなければならない。

將來に於ける婦人は愛の充實から生れた子供を人格的の注意と能力とによつて愛育しなければならない。母性は仕事として最も困難な同時に最も高尚な仕事であることを男も女も悟らなければならない。であるから、女性のうちの最も優秀な女性を家庭から驅逐することを恐れるならば、男子は婦人の母性を崇がめなければならない。

社會の安寧、國民の幸福並びに、向上を意とする者は、如何にして一家の主婦が安心して滿足して一家を守り、次代養成の事業に勵み得るかと云ふ處を根本とし、父同時に夫である男子の賃銀問題を整理し、且ツ母性保護の施設を完成することに努力すべきです。

これが、世界を、社會を幸福にする、そして、此處を目的とする婦人論が社會の信用を得るに足る婦人論です。無理解なる夫、殘酷なる父には制限を加へ、人道的な母の向上を計り、愛と知識の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

治世を現出する、云ひ直せば、私が十年來主張して來て人格的家庭の設立が婦人論並びに婦人運動の目的でなければならない。かくの如き信仰をもつて進むことによつて、私共人類は進歩の階段を一段登ることが出來るのです。

けれども、男子が人道の其の命令を無視して、いつ迄も、自分に便利な道具として婦人に對してゐるならば、恐るべき、今日の惡風潮、則ち、女性の重大なる任務を無視しやうとする初期の婦人運動の惡果は益々大きくなるとも小さくはならないことを世の男子諸士に警告して置きます。

ウオードの『純正社會學』

――現代社會問題解決の鍵――

レスター・エフ・ウォードの「純正社會學」の反譯が今度出版されたことを私共は喜んで居ります。なぜなら、我が國の今日の思想界は印象主義的な社會改革論や半熟の革命論が盛んで、それが大聲に叫ばれて居るので、眞面目な思想家の眞實な聲は其れに呑まれてしまつたり、又は、いつの間にか釣り込まれたりしてゐますが、この時に當つてのウォードの「純正社會學」反譯の出版はそれ等の

眞面目な思想家に有力な參考書を提供することになりますから。ウォードの社會學は久しい間世界の學者が批評の筆を下し得なかつた稍偉大なる著述であります。

ウォードが彼の社會學を世界に提供しやうとした當時、英米の學界はスペンサーの學說に風靡されてゐました。その當時の社會思想は殆んどスペンサーの思想を代表したものでありました。スペンサーの放任主義の理論は産業革命の初期の特長であつた競爭的精神から發生したものだと云はれてゐます。則ち政府の干涉を受けない個人の創意が社會進步の手段であり方法であると考へられてゐたのです。けれども、それが大資本の大合同となり天然の富源が少數の人々の獨占する處となり、國民大多數の自由と幸福を脅すやうになりました。個人の創意、好機會の平等は破壞されてしまいました。そして、産業革命以前の産業及び商業的發達の特長であつた個人企業の時代は大資本合同の時代となつてしまいました。

科學的知識の增加と組織の成長と共に富も非常に擴大しましたが、併し、それは少數の人の手のうちに集中し、そして、その富の力が政治を支配し、從つて國民の生活を支配するやうになつてしまいました。産業及び商業に於ける企業、其の他凡ての事業は國民の利益、幸福を目的とする筈で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あるのに少數の私腹を肥やすやうになつてしまいました。大産業に大資本を投じてゐる資本家は議會を左右し自己の利益に都合のよい法律を作らせ、そして、競爭を抹殺し益々私財の增加を計るやうになりました。

こう云ふ狀態は多くの人をして政府に對し疑ひの目を見張らせました。政府と云ふものは國民のために存在する筈であるのに、少數の利益を保護するために多數國民を苦しめる機關であるとさへ信じるやうになりました。眞面目な人の心にさへ反動思想が沸き上がりました。所謂特權階級に對する社會主義の運動となつたわけです。これが所謂新しい社會的目覺めであります。そして、多數國民は目に見へない力、彼等を束縛する鎖をたち切らうとしてもがきます。併し、彼等の實力は其れに對して充分でありません。

其處で、經濟的發達を賢く整理することが急務となつていろ〱の施設が講じられますけれども併し、殆んど其の全部が失敗に終つてゐます。と云ふのは、人體に病氣があることは分つてゐても醫學がないと其の病源が分らず、從つて、盲目的治療法を施してゐるのと同じやうに、社會を研究する學問が無いために其の社會の禍患を除去する方法が見付からずにゐたわけです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同時に、教育に對する新しい慾望が起りました。そして科學的の知識が非常に増加し、そして、其の科學的知識は社會現象の研究の方へと進んで行きました。

で、それ等の社會的科學的經濟的及び教育的の要求があつまつて社會理論に新しい現象を呈して來て、そして、その要求に應じて現れたものがウォードの社會學說であります。

要するに、ウォードの社會學はスペンサーの放任主義を倒す武器であり、そして、今迄の行きつきばつたりの政治を科學の知識に導かれた則ち科學的政治に代へやうとするものです。

スペンサーが彼の時代の產物であつたと同じやうに彼も亦彼の時代の產物であります。

此處に一ツ云ひ殘してならないことは、自然の方法が最上だと一般に相想されてゐたのに反して、ウォードは人爲の價値を高唱し、これを自然の方法の上に置きました。そして、これが人類の頭に無限の希望を植へ付けたのであります。要するに、ウォードが社會學を書いた最後の目的は社會政治(ソシオクラシー)を實現しやうと云ふ處にあるのです。もう一ツ付け加へて置きたいことは「純正社會學」と云ふことを一言で云ふなら「存在する價値あるものは如何なるものでも知る價値がある。純正とは事實を有りのまゝに完全に知ることである」と云ふウォードの言葉であります。

編輯の後

降るでもなく晴れるでもなく、泣き出しさうな空模様の二月二十日に私の母は八十四歳で歿しました。父、兄、其の他友人の死など死と云ふものに直面したことは度々ありましたが、併し、今度、母の死に出あつた時のように輕い氣持ちですんだことは今迄に經驗しなかつたことでした。

生きるだけ生きて、するだけのことをしてしまつて、別に病氣があるわけでもなく、自然に枯れて行くと云ふ狀態になり、一切の邪氣を失ひ、丁度、赤子と同じような他あいない心持ちとなり、死期が目の前に迫まつて來てゐるにも拘らずニコ〳〵笑つてゐる母は少しも悲しい印象を私共の心に殘さずに逝きました。

私は子供の時分には死と云ふことに對して本當にやるせない程の恐怖を感じてゐましたが、年と共に其の恐怖が薄らいだので、それは私の感情の硬化ではないかと疑つたこともありますが、とにかく母の死によつて私は全く安心して死れるものだと云ふ自信を持つことが出來るようになりました。知力的にゼロな母、財力的には無一物であつた母ですが、併し精神的に大きな遺産を私に殘して行きました。遺感の念さへ殘さなければ悲しい空氣を卷き起さずに、本當に平和に人間は終局に達し得ると云ふ實物教授をして母は行きました。私は今亡き母に感謝してゐます。

おだやかに眠つてゐるやうな遺骸を子や孫や曾孫が取りまいてゐるのも嬉しい光景でした。家族制度はなか〳〵破してならないものであることを今更ながら考へるのでした。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

[illegible]誌代及郵税は前金の事[illegible]御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと[illegible]郵券代用は五厘切手にて一割増[illegible]廣告は御照會次第御相談いたします

大正十四年二月廿三日印刷納本
大正十四年三月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN